

だめ!
コロナ差別

傷つけてませんか？その言葉

いまこそ、思いやりの心を

のぼさんの俳句には、豊かな「人権尊重」の心が息づいています。
今回の桜の句も、市民の皆様一人ひとりが慈愛の心を持ち、一丸とな
って、互いのいのちを守り、幸せに生きることを願ってのものです。

ひとえづつひとえつつち やえざくら

一重づゝ一重つゝ散れ八重桜 子規

この句の人権内容は「いのち」と「しあわせ」です。八重桜は皆さまご承知の
ように、房ごと散ります。のぼさんは分かっているながらあえて、一重づつ一重
つと、一重ごと散るようにと強く祈りながら、八重桜に慈愛の情をこめて
語りかけています。のぼさんの優しさの真骨頂でしょう。
この慈しみの心こそ、コロナウイルスに打ち勝つものです。松山市民の皆様が
範を示し、思いやりの心で、お互いのいのちと幸せを大切にしましょう。

ちよう さそ われて

とぶ蝶にさそはれてちる桜哉 子規

さくらかな

この句の人権内容は「しあわせ」です。令和四年度の本格的な春の訪れは、と
ぶ蝶に象徴されます。しあわせの象徴とも思える蝶に誘われて、ソメイヨシノ
の桜花は肅々とちります。新型コロナウイルスもこの桜花のようになくなって
ほしいという、のぼさんからのメッセージです。市民の皆様が一丸となって、ウ
イルス克服の、よき候を迎えましょう。